

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十五主日礼拝のしおり

2021年9月5日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 146 編 1-6 節

ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ。

命のある限り、わたしは主を賛美し 長らえる限り わたしの神にほめ歌をうたおう。

君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない。

霊が人間を去れば 人間は自分の属する土に帰り その日、彼の思いも滅びる。

いかに幸いなことか、ヤコブの神を助けと頼み 主なるその神を待ち望む人、天地を造り 海と
その中にあるすべてのものを造られた神を。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝に導いてくださりありがとうございます。私たちは共にあなたの御言葉をいただいて新しい一週間を始めます。

あなたは私たちの心の深みまでご存じで、私たちを本気で大切にし、私たちのすべてを赦し、私たちをまっすぐに建て上げてくださいます。自分で神さまに愛される資格がないと思うことがあってもあなたのあふれる愛はかわりません。今週も人々の幸せを作り出し、あなたを待ち望むように、イエス様によって生かしてくださいます。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

新型コロナウイルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヤコブ 2章:1-10,14-17節

わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるではありませんか。わたしの愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者となさったではありませんか。だが、あなたがたは、貧しい人を辱めた。富んでいる者たちこそ、あなたがたをひどい目に遭わせ、裁判所へ引っ張って行くではありませんか。また彼らこそ、あなたがたに与えられたあ

の尊い名を、冒瀆しているのではないですか。もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。しかし、人を分け隔てするのなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違犯者と断定されます。律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。・・・わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたのだけかが、彼らに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい」と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。

福音書朗読：マルコ7章24-37節

イエスはそこを立ち去って、ティルスの方角に行かれた。ある家に入り、だれにも知られたいと思っておられたが、人々に気づかれてしまった。汚れた霊に取りつかれた幼い娘を持つ女が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。女はギリシア人でシリア・フェニキアの生まれであったが、娘から悪霊を追い出してくださいと頼んだ。イエスは言われた。「まず、子供たちに十分食べさせなければならぬ。子供たちのパンを取って、小犬にやっちはいけぬ。」ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」そこで、イエスは言われた。「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘からもう出てしまった。」女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。

それからまた、イエスはティルスの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エツファタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけぬ、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々はかえってますます言い広めた。そして、すっかり驚いて言った。「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにして下さる。」

説教：「パン屑はいただきます」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

新型コロナ・ウィルスの治療や感染予防のため医療やそのサポートに携わっておられる方々の献身的なお働きに感謝をいたします。さて、私たちは体調が変わるとお医者さんに行くことを

考えます。お医者さんはどこがわるいか、どうしてそうなったのか、どうすれば治るかを判断していただきます。治療計画をたててお薬や静養や手術やセラピーなどを勧めていただきます。

イエス様がお医者さんについて話しているところがあります。マルコによる福音書では12章17節です。イエス様は当時の徴税人と言われる人や罪びとと呼ばれる人々と一緒に親しく食事をしました。当時のファリサイ派の律法学者とよばれる人から、みんなからいやがられているけがれた人たちと仲良くするのはどうなのか、と批判されました。そのときイエス様は「医者が必要とするのは丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪びとを招くためである」と言われました。イエス様は自分のことを罪びとではないと勘違いしている人々には歓迎されませんでした。しかし自分にはただししい歩みができないと自覚している大勢の人々を招き、ともに食事をしました。その罪を赦し、あたらしい生き方を与えてくださいました。

世の中の立派な人々から罪びとと呼ばわりされていた人々は、自分たちは神様から覚えられていないだろう、と感じていました。しかし、イエス様は罪びとを招くために来てくださったというのです。口先だけでそう言われるのではなくて、一緒に食事をし、人々からの悪口も、イエス様がみがわりに受けて下さっているのですから、とてもうれしかったと思います。

イエス様は同じマルコによる福音10章45節で「人の子は仕えらえるためではなく、仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命をささげるために来たのである」と言われました。イエス様の生活、イエス様のご生涯は、よいお話をして人々を慰める、ということを超えて、人々にごじぶんのいのちを与え、それによって人々が罪を赦されてあたらしいいのちで生きるためのものでした。旧約聖書の昔から予告されていた救い主として、私たちのかわりに十字架にかかって、神様のさばきをみがわりに受けて死んでくださるために来てくださいました。私たちはこのイエス様によって、私たちの問題の中心にある罪を神様にただしく赦されます。そして世にあってはまだ残る自分の罪の性質や、接する人々の罪深さに苦労しながらも、神様の子どもとさせていただいた新しいいのちを生き抜いていく逞しさ、楽しさが与えられています。イエス様は人々の罪や問題をご存じで、そこに触れてくださいます。見知らぬ人から触れられることは嫌なことですが、イエス様は病気を治してくださるお医者さんのように、自分でも見たくない罪を私たちに見せて、ご自身のいのちをかけてそれを赦していただきます。生きていく限りいつもめんどろに思う自分の罪がすっきり赦され、新しいいのちを生きることがプレゼントされるのです。そこではじめて、人間としていただきたいいのちをほんとうに生きる者とされます。このような信仰に行かされる生涯はなんとすばらしいことでしょう。

1. 資格のない人の救い

そのような救い主をイスラエルの人々は待ち望んでいました。罪からの救い主です。旧約聖書のイザヤ書35章には、その方がくると見えない人の目が開き、聞こえない人の耳が開く。そのとき歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口のきけなかった人が喜び歌う」と預言され

ていました。マルコ2章ではイエス様は、自分で歩けないので友だちにベッドごと連れてきてもらった方を癒して、歩いて帰ることができるようにしてくださいました。マルコ8章では目の見えない方を見えるようにしてくださいました。今日読まれたところでは、イエス様は耳の聞こえない人、舌の回らない人を癒してくださいました。イエス様が約束の救い主であることを人々は知ったのです。

さて、イエス様がイスラエルの人々以外の人とお出会いになっているところが開かれました。イエス様はガリラヤ地方からティルスの方角に行かれたときのことです。あるギリシャ人の女性がイエス様のところに来ました。彼女は幼い娘が汚れた霊にとりつかれていて、イエス様に助けてほしいと願ったのです。イスラエルの人々の間でお働きになっているときは、こんな方々がたくさん押し寄せてきて、イエス様はおひとりひとりに向き合って癒してくださいました。けれどもここは旧約聖書を知らず、救い主が来ることを約束されていなかった人々の住む地方でした。この女性はそれでもイエス様なら娘を助けて下さると信じてイエス様のところに来ていました。イエス様は言われました。「まず子どもたちに十分パンを与えます。子どものパンをとってテーブルの下にいる子犬にはあげません。」ちょっと冷たく聞こえます。でも、この女性は普通のイスラエルの人がギリシャ人について野良犬呼ばわりしていることと違って、イエス様は自分のことを、家のなかで家族同様にかわいがっている子犬と認めて下さっていることを聞き取ってイエス様に言いました。「子犬もこぼれるパン屑はいただきます！」イエス様はこの女性の信仰をご覧になり、「家に帰ってごらん下さい。家で待っているお嬢さんはもう癒されましたよ」と言われました。女性は帰ってみるとその通りになっていたのです。

イエス様はこれからイスラエルの人から捨てられ、異邦人である総督ピラトに苦しみを受けて、十字架で殺されることで、人類の罪の身代金としてご自分のいのちをおささげになります。そこでこのときにはまだギリシャ人の女性をイスラエルの人と同じように接することはなさいませんでした。イエス様が救いを完成してよみがえられたときに、全世界に出て行って福音を宣べ伝えるように、と弟子たちに言われ、弟子たちも至る所でイエス様の救いを宣べ伝えました。

この女性はこれらのこともわきまえていたようです。そのうえで、まだギリシャ人であるわたしには資格がないけれど、パン屑はいただけるのではないのでしょうか、とイエス様に信頼しました。イスラエルの人々が十分たべて、それでも残ったパン屑ならいただけるのではないのでしょうか、という信頼です。イエス様はそのような信仰をご覧になって、女性の娘を、家に行くことなくお癒してくださいました。

私たちは自分に救われる資格がない、赦される資格がない、あたらしい命をいただく資格がない、と考えることがありますか。調子のいいときはあまり考えないかもしれませんが。しかし何か不運にもものごとがうまくいかないとき、自分はだめなのかもしれない、そんな運命なのかもしれない、どうせ自分なんかには幸せになる資格はない、自分には自分相応の人生しかない、と弱気になります。不運にみまわれたときにもそうなのですが、自分に問題を感じるとき

はなおさらです。この性格は治らない、自分には能力がない、自分は劣っている、足りないところがある、どうしようもない、と絶望的な事実を突きつけられて傷つき倒れます。自分には幸せになる資格がないのではないかと真剣に信じてしまいます。

けれども、イエス様が五千人の人々を五つのパンと二匹の魚でおな一杯食べて満腹した後、お弟子たちがのこりを集めると十二の籠いっぱいになっていました。同じく四千人の人々を七つのパンと小さい少しの魚で人々を養い、みんながおなかいっぱい食べて満腹したとき、残ったパン屑は七籠になりました。食べる人が満腹になっても、パン屑は大量に、十分にあります。イエス様の恵みは満ち溢れているのです。絶望的なあなたのためにも、イエス様のめぐみは豊かにあります。この人にはイエス様のあわれみを受ける資格はないかな、と思われるようなギリシャ人の女性のためにも、そして自分に失望して神様からの十分な恵みはもらう立場にはない、と決めつけているかもしれないあなたのためにも、イエス様の罪の赦しとあたらしい命は豊かに与えられます。

2. イエス様は触れてうめいていやし、赦してくださる

ガリラヤ地方に帰って来られたイエス様のところに、人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れてきました。イエス様は群衆から彼だけを連れ出して指を耳に差し入れ、唾をつけてその人の舌にお触れになりました。イエス様はその方を群衆の中で辱めることなく、むしろひとりの大切な方としてその人生に顔を向けて向き合ってください、一番困っているところにお触れになり、そして天を仰いで深くうめいてくださって「エッフアタ」、つまり開けと命じられました。耳が開け、舌のもつれがとけてはっきり話すようになりました。救いが来たのです。マルコの2章10節によると、イエス様の癒しは、罪の赦しです。あなたをはずかしめないで、あなたの罪をご自分で担ってください、あなたと共に呻きつつ、あなたを新しいいのちで満たします。キリストの言葉を聞く耳が開かれ、舌のもつれが去って神を賛美する口に変えられます。

3. 内からあふれる賛美

この奇跡を見た人々は、口止めされればされるほど、約束の救い主が自分たちのところに来てくださった喜びを抑えることができず、自分たちも口々にイエス様を賛美して言い広めました。聖書の約束が実現した、私たちの神さまは生きておられる、イエス様によって生かされている、という喜びです。

この一週間、この喜びの賛美を具体的な生き様の中に受肉させましょう。神様のみ言葉を聞いて、舌のもつれなく神様を賛美する一週間を送りましょう。自分の問題や絶望、罪や汚れそのものにお触れ下さり、赦しと命を惜しみなくお与え下さるイエス様のパン屑で満たされましょう！今週も人々との出会いを喜び、人々の幸せを作り出す幸せに生きていきましょう。

ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」マルコ7:28

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 399 番

1. 悩む者よ とく 立ちて 恵みの座に 来たれや
※天の力に 癒し得ぬ 悲しみは 地にあらし
2. 幸(さち)なき身の 慰めや、悔やめる身の 望みや ※
3. 見よ、命の ましみずの 御座(みざ)より湧き出ずるを ※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えされ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏